駆け込み需要(約22億円)があったことにより、主力の化粧品関連事業、栄養補助食品関連事業が減収となったことが響いた。

「売上全体はほぼ計画通りで推移しているが、もう少し伸ばしたかった」(同社)。チャネル別では、都

営業利益は、販管費に広告宣伝費の効率的な運用(約25億円)に努めたほか、販売手数料などの変動費(約19億円)が減少したものの、売上減による売上総利益の減少(約86億円)などにより減益となっている。

セグメント別では、化粧品が売上高で23・9%減の303億4900万円、営業利益で58・9%減の30億9100万円、栄養補助食品が売上高で15・1%減(国内=17・2%減、海外=20・4%増)の194億8500

増となっている。

同期と比べ増税駆け込み分の22億円が目減りしている。

「マルチチャネルの強みを発揮し、『直販チャネル(国内)』と『海外』が増収となった」(同社)

化粧品の売上高内訳は、

栄養補助食品の売上高内訳は、通信販売が11・6%増の86億5500万円、店舗販売が48・3%減の35億8900万円、卸販売が18・2%減の57億4600万円、海外が20・4%増の14億9400

億2100万円となっている。

ファンケル化粧品は、店舗販売から通信販売への積極的な誘導や、外部通販の大幅な伸長により通信販売は増収となったものの、新型コロナウイ

踏まえ、下方修正した。

売上高は前回公表比70億円減の1200億円(前期比5・4%減)、営業利益は同15億円減の130億円(同8・0%減)、経常利益は同14億円減の132億円(同7・8%減)、純利益は同10億円減の90億円(同9・9%減)を見込む。なお、インバウンド売上は2億円(前期は139億円)

海外=22・6%減)の519億1000万円、アテニアが3・0%減の122億9000万円、ボウシャが0・4%減の28億円と想定している。

「前回計画では、下期以降インバウンド需要が徐々に戻り、国内顧客も店舗で一定程度買い物される前提でつくっていたため、その部分に関しては読みが外れた」(同社)

エシカルな選択を促し、共生するブランドに

世界的に地球環境問題への取り組みが本格化し、化粧品業界においてもサステナビリティポリシーやSDGsを掲げるメーカーやブランドが増えている。

環境問題への取り組みについては、日本は世界に比べて遅れているとの指摘もあるが、北米では成長市場に位置づけられている「クリーンビューティ」の括りで、日本のコスメブランドが「J-Beauty」として昨今注目を集めている。

さて、日本にも商品を選ぶ際に美容効果への期待と一緒に、環境のことも考えるといったエシカルな選択が広がってきていることを、R.B.Gが手掛けるナチュラルコスメブランド「エフェラル」が伝えている。2019年春のブランド誕生から、ボディケアトリートメントを軸にエシカル消費を取り込み、ユーザーの要望に応える形でシリーズアイテムを増やしている。

「efferal(エフェラル)」は、effect(効果)とnatural(自然さ)を組み合わせた造語で、95%以上を天然・植物由来成分で構成しつつ、一般の化粧品と同じように3年間品質が保持できることをブランドポリシーに掲げている。パラベン・エタノールフリーで肌にやさしく、サステナブルな化粧品づくりを追求し、製品に配合している成分とその由来についてはWeb上で開示している。

同社は「毎回、越えなければならないハードルは高い」としながらも、洗顔料、UVクリーム開発に成功し、今年10月にはリップバーム2種とヘアオイルミストを発売した。発売後は、展示会やイベントを通じて「興味を持ってくださる方が増えてきた」との実感を得ており、共感価値を生むブランドとして手応えを掴んでいる。

また、同社は非営利型法人である(一社)サーキュラエコノミージャパンの会員でもあり、バイオマス容器やFSC(森林管理協議会)の森林認証紙を採用するなど外装にも環境にやさしい素材を積極的に採用している。

オイル層とトリートメント層に分かれた2層式のヘアオイルミストには、環境配慮型の新素材として注目される「グリーンナノ」を練り込んだ容器を採用した。化粧品容器にグリーンナノを使用したのは、業界初だという。

今後もブランドポリシーを貫き、美容効果と自然・環境を両立した化粧品開発を進めていく。(吉)

ヒット商品 母子手帳

第294回

「エフェラル ボディケアトリートメント」

R.B.G

ロレアル

新しい血管網を備えた全層皮膚モデルを発表

IFSCC学術大会で応用研究部門最優秀賞を受賞

仏・ロレアルは、「美しさと幸せ~境界線を超える」というテーマで開催された「第31回 国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)学術大会2020」にて、「血液が流動可能な血管網を備えた局所および全身投与試験のための全層皮膚モデル」というテーマで研究発表を行い、口頭発表部門で応用研究賞を受賞した。

今年度のIFSCC賞は、「第294回 ヒット商品 母子手帳」に関する発表が応用研究賞を受賞した。